

岡山型学習指導のスタンダード増補版 授業改善、「一歩先へ！」 ～児童生徒が主役となる授業づくり～



岡山県教育庁義務教育課
学力向上対策班

1

【研修担当者へ】

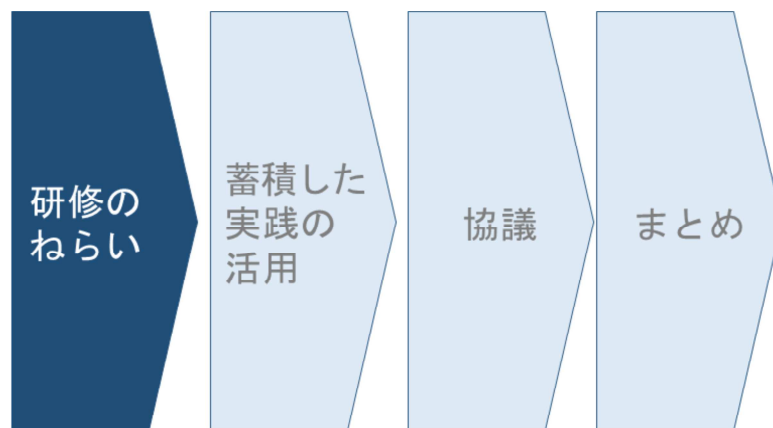
- 各校の実態に応じて、本ファイルを加除修正して活用ください。
- 各スライドに示した読み原稿（例）は、研修時に参考ください。
- 「蓄積した実践の活用」、「協議」のスライドは必要に応じて分割して活用できます。
- 「協議」のスライドは、授業5の場面で分割して活用できます。

【読み原稿】

本資料は、児童生徒が主役となる授業づくりについて、
以下の内容で構成しています。

- ・ 研修のねらい
- ・ 蓄積した実践の活用
- ・ 協議
- ・ まとめ

進 行



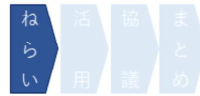
2

研修を実施するに当たり、ねらいを確認します。

研修のねらいの構成は、以下のとおりです。

スライド3で、授業5に基づいた授業改善の工夫を交流し、
スライド4で、研修のねらいを知り、
スライド5で、質の高い授業について共有します。

振り返りましょう



授業5に基づいた授業改善の工夫を交流する。

| 授業5 | 授業場面 |
|-------------------|---|
| めあて（目標）を示す | <ul style="list-style-type: none">・教員から一方的に提示する・問題文がめあてになっている |
| 自分で考え、表現する時間を確保する | <ul style="list-style-type: none">・数人の児童生徒とのやり取りに終始している・とりあえず、ペアやグループにする |
| 目標の達成度を確認する | <ul style="list-style-type: none">・「わかりましたか？」や「どうですか」と問い「いいです」と答えさせて済ませる |
| 学習内容をまとめる | <ul style="list-style-type: none">・児童生徒の言葉を無理やり解釈する・都合のいい考えだけを取り上げる |
| 授業の振り返りをする | <ul style="list-style-type: none">・情緒面のみの振り返り |



授業5に沿うことが目的化し、児童生徒がどのように学ぶかについての意識が薄くなっていませんか。

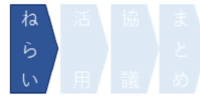
3

岡山型学習指導のスタンダードの授業5の導入当時は、スライドに示したような姿も見られました。

現在は、授業改善の推進により、このような姿は減少しています。

表のようにならないようにするため、各自が実施している工夫について、5分間で情報交換をします。

ねらい



研修のねらいを知る。

質の高い授業の実現のために、

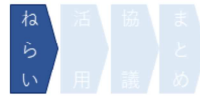
- 1 『学習指導S【増補版】授業改善、「一歩先へ!」』（以下、「一歩先へ!」）に基づき協議することで、**児童生徒が主役となる授業づくりについて理解を深める**
- 2 各自の実践の好事例を共有することで、学校全体や各自の**授業改善に生かす**ことをねらいとする。

4

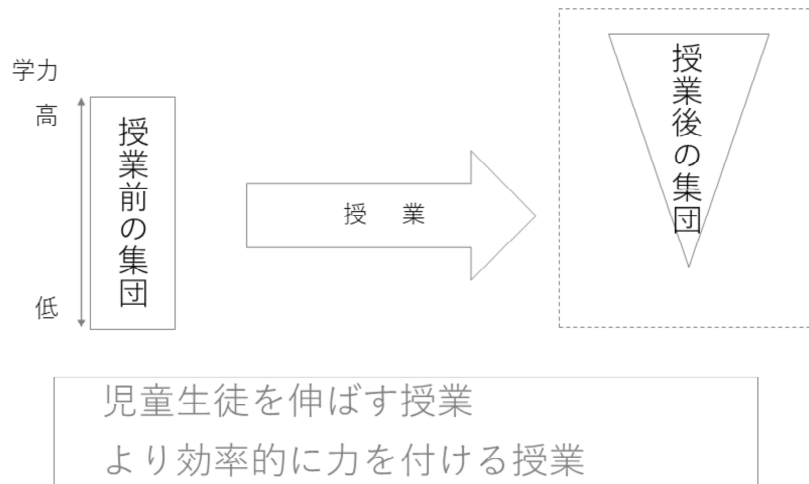
本研修のねらいは、質の高い授業の実現のために、

- 1 『学習指導S【増補版】授業改善、「一歩先へ!」』（以下、「一歩先へ!」）に基づき協議することで、児童生徒が主役となる授業づくりについて理解を深める。
- 2 各自の実践の好事例を共有することで、学校全体や各自の授業改善に生かすことをねらいとしています。

質の高い授業



授業後の児童生徒の姿を共有する。

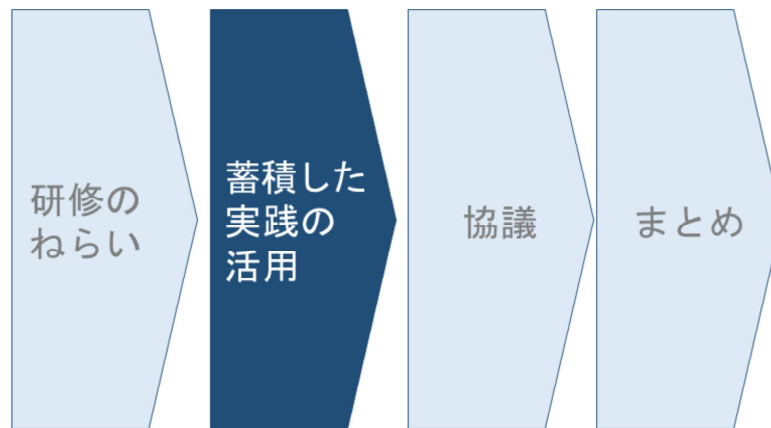


ここで、「質の高い授業」について、共通理解をします。

左の授業前の集団を見てください。学級集団の中には、本時の学習内容を得意とする児童生徒も、苦手とする児童生徒もいます。この集団が、授業をとおして学習内容への理解を深め、右に示した授業後の集団となるような授業が「質の高い授業」と言えます。

では、どのようにして授業の質を高めたり、学校全体で共有すればいいでしょうか。以降のシートで考えましょう。

進 行



6

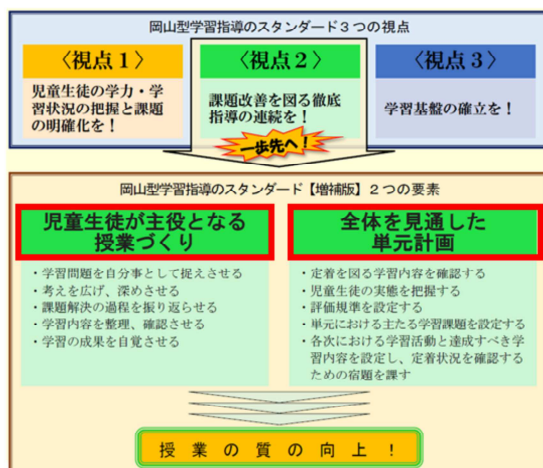
の構成は、以下のとおりです。

学習指導のスタンダードとの関連を示しています。
力量ある先生方の経験を若手先生方等に継承する必要性を、
児童生徒の授業観を「教わる」から「学ぶ」へ転換する必要性
を説明しています

培ってきた優れた授業や「授業5（ファイブ）」に基づいた
実践の蓄積を生かすことの重要性を示しています。

蓄積の活用

学習指導のスタンダードとの関連を知る。



7

これからも、「岡山型学習指導のスタンダード」が基盤であり、「一歩先へ！」は、授業の質の向上に向けた取組の手掛かりを示す位置付けです。

取組の手掛かりの2つの柱は「児童生徒が主役となる授業づくり」「全体を見通した単元計画」です。

蓄積の活用

若手教員等の熱意と力量ある教員（以下、「指導層」とする。）の経験をつなぎ、授業の質の向上を図る。

一步先へ!

若手教員 ○ 意欲 情熱
△ 授業5で基盤
時間 情報

指導層 ○ 経験 情報
後進の育成

若手教員 自分の言葉で、
学習者目線の授業、
単元計画を語る。

指導層 本資料に基づき、
自身の経験を若手
に語る。

| | |
|----|-----------------|
| 柱1 | 児童生徒が中心となる授業づくり |
| 柱2 | 全体を見通した単元計画 |

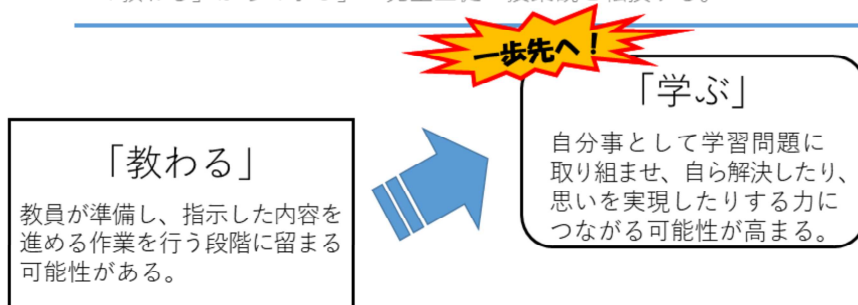
学校には、経験年数や担当教科の違いにより、様々な立場の先生方がいます。

力量ある先生方には、若手の先生方における更なる授業の質の向上に向け、自身の授業づくりを「一步先へ!」の視点を踏まえて実施したり、語ったりしていただくようお願いします。

力量ある先生方が授業改善に取り組む姿勢やその経験を伝えることが、若手の先生方に好い影響を与えます。

蓄積の活用

「教わる」から「学ぶ」へ児童生徒の授業観を転換する。



| | |
|----|--|
| 導入 | 児童生徒自らが「〇〇したい」と言い出せる学習活動の工夫をする。 |
| 展開 | 答えを活用するだけでなく、解決の過程も振り返らせ、課題解決の手法を学び取らせる。 |

9

上段のタイトルにある、児童生徒が授業観を「教わる」から「学ぶ」へと転換するためには、先生方の授業観を転換する必要があります。

その理由を、中段に示しています。

左枠のように、児童生徒が「教わる」という受動的な態度で授業に向かえば、学習活動がやらされ感のある作業に留まってしまう可能性があります。

一方、右枠のように、児童生徒に、課題を自分事として捉えさせ、自ら「学ぶ」能動的な態度を引き出すことで、個々の児童生徒がより力を伸ばすことにつながる可能性が高まります。

そのために、下段に示すように、導入と展開を工夫しましょう。

導入では、既習事項や日常生活と関連付ける等、児童生徒が「〇〇したい」と感じられる手立てを工夫することが大切です。

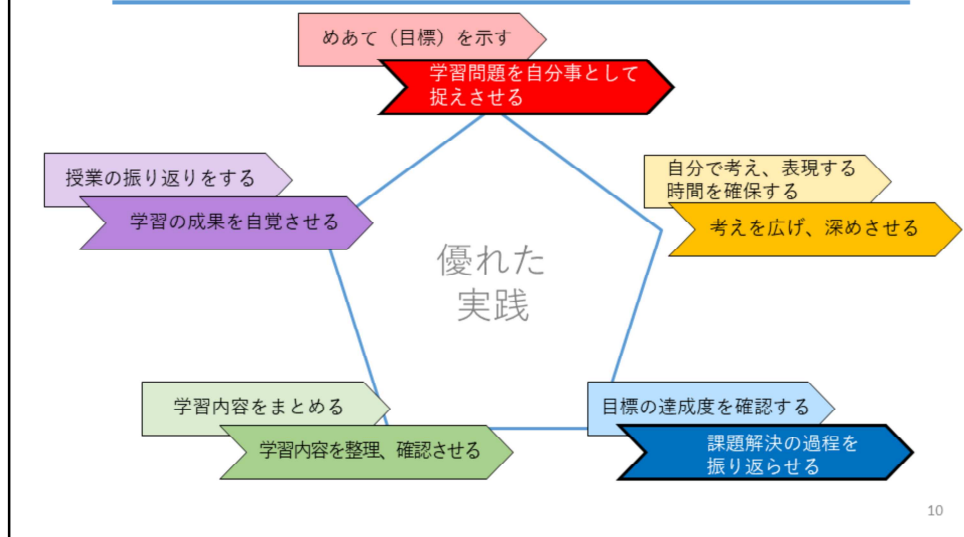
展開では、各自がもった考えを関連付け、考えを広げたり深めたりしながら解決に迫りましょう。

また、達成度を確認する際、答えだけでなく、解決に至った方針や過程を振り返ることで、課題解決に必要な力を育みましょう。

蓄積の活用

活 協 活 協 活 協 活 協
用 議 議 議 議 議 議 議 議
p 3、4

培ってきた優れた授業を生かし、「授業5（ファイブ）」を「一歩先へ！」進める。



本校において、「岡山型学習指導のスタンダードの『授業5』」に基づいて蓄積してきた実践を基盤とし、授業5を「1歩先へ！」進めることが授業の質を高めることにつながります。

留意してほしいことは、

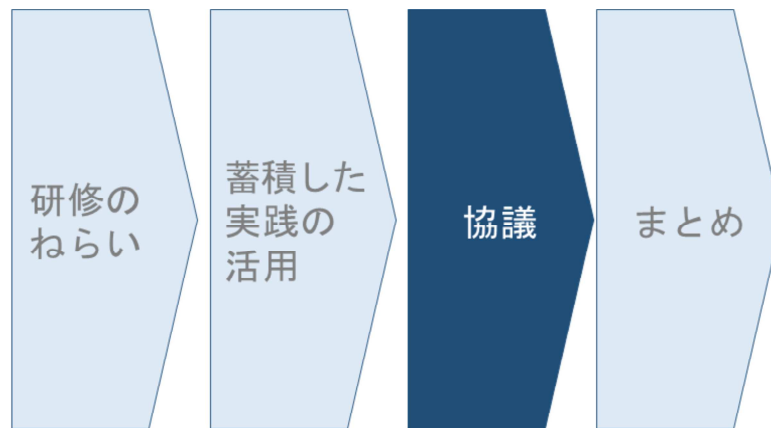
授業5の③「目標の達成度を確認する」の一步先について、「

ここにおける「振り返る」は、本時の課題について、授業5の②までを振り返り、課題の解決過程を確認することです。

児童生徒自身が、達成度を確認できるよう、問題や活動に取り組む場を設定し、答えだけでなく、解決過程を振り返らせることが大切です。

なお、授業5の⑤「授業の振り返りをする」は、授業全体を振り返り、自分の学びの手応えや意義を考えることですので違いに留意ください。

進 行



11

の構成は、以下のとおりです

スライド12では、「協議」用スライドの構成について説明します。
スライド13、14では、「学習問題を自分事として捉えさせる。」ための手立てを協議します。
スライド15、16では、「考えを広げ、深めさせる。」ための手立てを協議します。
スライド17、18では、「課題解決の過程を振り返らせる。」ための手立てを協議します。
スライド19、20では、「学習内容を整理、確認させる。」ための手立てを協議します。
スライド21、22では、「学習の成果を自覚させる。」ための手立てを協議します。

「協議」用スライドの構成 p 3、4

「協議」用スライドの構成について知る。

【メモ用スライド】

【参考用スライド】

12

協議用スライドの構成について、説明します。
 授業5の1場面につき、2枚のスライドがあります。
 1枚目は、協議した内容をメモするスライドであり
 2枚目は、方法例や指導技術を示したスライドです。

左に示している「メモ用スライド」は、協議や交流の時に活用します。
 上段に、授業5のうち、協議する場面を示し、
 中段に、左に改善が必要な状態、右に目指す姿の例を挙げ、
 下段に、自分の考えを記入する欄と協議の中で参考になった考えを記入する欄を
 設けています。

右に示している「参考用スライド」は、メモ用スライドで自分の考えを持ちにくい時、本場面における協議のまとめ、校内で取組を共有する時に参考にします。
 上段に、授業5のうち、協議する場面を示し、
 下段に、左に「一歩先へ！」のp 3、4の板書例から関連する部分を赤枠で囲って示し、右に「一歩先へ！」のp 7～9に示した指導技術から関連する部分を示しています。

【研修担当者へ】

協議の進行例は、以下のとおりです。

- 1 自分の考えを書く（5分） 1枚目のスライドを活用する。必要に応じ2枚

目のスライドを参考にする。

2 考えを出し合う（10分） 1枚目のスライドを活用する

3 考えの共通点を探り、一般化する（10分） 1枚目のスライドを活用する。
必要に応じ2枚目のスライドを参考にする。

※ 各項目における時間は目安であり、人数、研修時間等により変更ください。

※ 授業5の2から5も同様に進めてください。

※ スライド13に読み原稿例を示しているなので、参考としてください。

ね
ら
い
活
用
協
議
ま
と
め
p 3、4

「めあて（目標）を示す」を一步先へ！

「学習問題を自分事として捉えさせる。」ための手立てを協議する。

こんなことはありませんか？

めあて（目標）を示す

- ・本時に取り組むべき課題について、理解が不十分なままで学習が始まる。

➔

学習問題を自分事として捉えさせる

- ・既習事項と関連付け、解決の見通しを持たせる。
- ・本時の目標に応じた問いを提示する。

| | |
|-------------|--|
| 自分の 考え | |
| 参考に なる考え | |

13

【協議の進行の具体例】

・児童生徒に「学習問題」を自分事として捉えさせるために、実施したり考えられたりする手立てを協議します。

進行は、1 自分の考えを書く（5分） 2 考えを出し合う（10分） 3 考えの共通点を探り、一般化する（10分）とします。

1枚目にメモをするとともに、必要に応じて2枚目のスライドに示しているページを参考にしてください。

・（こんなことはありませんか？に注目してもらい）めあてを、毎時間教師が提示している、問題文がめあてになっている（参照：スライド3）等により、本時に取り組むべき課題について、理解が不十分なままで学習が始まってしまうことはありませんか（参照：こんなことはありませんか）。

・児童生徒に、学習問題を自分事として捉えさせるには、既習事項と関連付け、解決の見通しを持たせたり、本時の目標に応じた問いを提示したりする等の手立てが考えられますが（参照：一步先へ！）、先生方はどのような手立てをしていますか。

・時間を5分とりますので、自分の考え欄に、実践したり、考えたりしている手立てをお書きください。

- ・全体（グループ等）で考えを出し合い、共有をします。
- ・（出された考えについて、比較・分類した上で）学校として共通して取り組むことを共有します。
- ・ここで出された意見に加え、2枚目のスライドに示されている〇〇にも留意しながら取組を進めましょう。
（授業5の他の場面の協議へ進む）

「めあて（目標）を示す」を一步先へ！

p 3、7

<授業5 ①>めあて（目標）を示す 学習問題を自分事として捉えさせる

p 3

II 授業5(ライブ)の「一歩先へ！」

「教わる」から「学ぶ」へ児童生徒の授業観を転換しましょう

① 児童生徒が、授業において自ら「学ぶこと」を学びたい、成長したい、学びたいと、新しい学びの学習態度の工夫を長身に位置付けてます。

② その際、既に習った事柄を思い出して学び直し、基礎知識を固めることで、進んで学びたいという意欲を高め、主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせます。

【本時の目標】
① 児童生徒が自ら「学ぶこと」を学びたい、成長したい、学びたいと、新しい学びの学習態度の工夫を長身に位置付けてます。

【本時の目標】
② その際、既に習った事柄を思い出して学び直し、基礎知識を固めることで、進んで学びたいという意欲を高め、主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせます。

【めあて（目標）を示す】

【本時の目標】
① 児童生徒が自ら「学ぶこと」を学びたい、成長したい、学びたいと、新しい学びの学習態度の工夫を長身に位置付けてます。

【本時の目標】
② その際、既に習った事柄を思い出して学び直し、基礎知識を固めることで、進んで学びたいという意欲を高め、主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせます。

p 7

◎ 既習事項と関連付け、解決の見通しをもたせませす。
児童生徒が、工夫をしたら解決できそうだと思うことが大切です。

めあてを示す流れ

① 既習事項の確認

② 問題の提示

③ 解決の見通し

④ めあての提示

教員の工夫や配慮事項

① 既習事項の確認
前時までに学習したことを思い出させたり、自分のノートを読み返させたりし、既習事項から本時の学習につなげます。

② 問題の提示
具体物や掲示物を用いる、対話する、操作する等、児童生徒が問題を把握しやすくなる工夫をします。

③ 解決の見通し
問題解決に向けて、活用できる既習事項やその使い方を確認し、板書に位置付けます。

④ めあての提示
活動の見通しがもてたところで「めあて」を示します。授業の流れも示すと、見通しをもって学習に取り組めます。

p 7

◎ 本時の目標に応じた問いを提示します。
思考力、判断力、表現力等を育成する授業では、中心となる発問は、概念的な理解や教科の本質に関わる問いを用います。

| 問いの階層 | 問いの具体例 |
|--|--------------------------------|
| 事実的な知識の問い 一問一答で答えられる問い | 平安京はどこに建てられたか？ |
| 概念的な理解の問い 方法論「～するには、どうすればよいか」に関する問い | 平安時代から鎌倉時代への変化はどのようによつて起こされたか？ |
| 教科の本質に関わる問い 単光を超え、様々な文脈で活用できる問い | 社会はどのような要因で変わっていったか？ |

「自分で考え、表現する時間を確保する」
を一步先へ！



p 3、4

「考えを広げ、深めさせる。」ための手立てを協議する。

一步先へ!

こんなことはありませんか？

自分で考え、表現する
時間を確保する

- ・自力解決が丸投げや作業になりがちである。
- ・考えを広げ、深めることが難しい。



考えを広げ、深めさせる。

- ・問題に対する考えをもてるように教材等を工夫する。
- ・考えを共有したり、比較・検討したりする。

| | |
|-------------|--|
| 自分の 考え | |
| 参考になる 考え | |

15

「自分で考え、表現する時間を確保する」
を一步先へ！



p3, 7, 8

<授業5 ②> 自分で考え、表現する時間を確保する 考えを広げ、深めさせる

p 3

II 授業5(ライブ)の「一歩先へ！」

「教わる」から「学ぶ」へ児童生徒の授業観を転換しましょう

① 授業観が、授業において自ら「学ぶこと」(学びたい、聞きたい等)と、新しい社会的学習活動の工夫を長身に位置付けています。その際、既に習得した内容を学習するだけでなく、授業観を転換することで、進んで行けなく、進捗も遅れた経験も学び身に付きます。

【事前準備】
授業観を転換するにあたり、授業観を「教わる」から「学ぶ」へと転換させることで、授業観を転換させるための準備をしておくことが大切です。

【授業観】
授業観を「教わる」から「学ぶ」へと転換させることで、授業観を転換させるための準備をしておくことが大切です。

【授業観】
授業観を「教わる」から「学ぶ」へと転換させることで、授業観を転換させるための準備をしておくことが大切です。

【授業観】
授業観を「教わる」から「学ぶ」へと転換させることで、授業観を転換させるための準備をしておくことが大切です。

p 7

◎ 児童生徒が問題に対する考えをもてるよう教材を工夫します。
・発達段階に応じて、テキスト、図説、統計、実物等の資料を適切に準備します。

資料を取り扱う際の視点(例)

| | | | | | |
|------------|-----------|-----------|------------|-------------|--------|
| 必要な情報の読み取り | 体系的な傾向の把握 | 複数資料の関連付け | 特徴に応じた読み取り | 資料の収集・選択や吟味 | 整理と再構成 |
|------------|-----------|-----------|------------|-------------|--------|

p 8

◎ 考えを共有したり、比較・検討したりします。
・本時の目標を達成できるように、児童生徒の発言をつながせます。

考えを「広げる」問い出し(例)

予想 「～の考えがどのくらいかかりますか？」
理由 「～の考えを聞いてみたいですか？」
目的 「～の考えはどのくらいかかりますか？」
結果 「～の考えはどのくらいかかりますか？」

考えを「深める」問い出し(例)

理由 「～の考えはどのくらいかかりますか？」
目的 「～の考えはどのくらいかかりますか？」
結果 「～の考えはどのくらいかかりますか？」

共通で使える問い出し(例)

理由 「～の考えはどのくらいかかりますか？」
目的 「～の考えはどのくらいかかりますか？」
結果 「～の考えはどのくらいかかりますか？」

目標に応じて交流場面を設定し、積極的に交流させます。

| | |
|--|--|
| ① 交流場面づくり | ② 質疑応答 |
| 説明するに際し、話し手や聞き手のポイントを確認させます。 ・ 時間制限を設けて、発言させます。 ・ 交換後、自分の考えを共有したり、交換したりする時間を確保します。 | 児童生徒から考えを聞き出し、つらいつらいつらとして、授業に活かします。 考えのよさを認め、褒め、伸ばすことができると、多様な考えを認め、検討させます。 ・ 全員参加の考えを促すことができると、集団が活発になります。 ・ 考えを深め、本時の目標を達成することができると、問い出しや考えの共有が活発になります。 |

「目標の達成度を確認する」を一步先へ！

「課題解決の過程を振り返らせる。」ための手立てを協議する。

一步先へ！

こんなことはありませんか？

目標の達成度を確認する

- ・児童生徒にとって、合格基準がわかりにくい。
- ・確認問題の質や量を確保することが難しい。



課題解決の過程を振り返らせる

- ・児童生徒自身が確認できるよう、問題や活動に取り組む場を設定する。

| | |
|-------------|--|
| 自分の 考え | |
| 参考になる 考え | |

「目標の達成度を確認する」を一步先へ！

<授業5 ③> 目標の達成度を確認する 課題解決の過程を振り返らせる

p 4

The screenshot shows a lesson plan for '中学数学Ⅰ 数学 一次関数'. The '確認する' section is highlighted with a red box. It contains the following text:

確認する
 ① 学習した内容の要点や相違点を整理し、学習した考え方を基にして、解いたり表現したりする。
 ② 自分が思いがなかった考え方を思い、解いたり表現したりする。
 ③ 料々に獲得した考え方を思い、解いたり表現したりする。
 ④ 集団で練習上げるなどしたよりよい考え方を思い、解いたり表現したりする。
 ⑤ 既習事項との関連付けを意識しながら、解いたり表現したりする。

p 8

◎ 児童生徒自身が確認できるよう、問題や活動に取り込む場を設定します。
 ・ 本時の学習内容と解決の過程が同様で条件を変えた問題や、関連本時の主たる活動を提示し、一人で取り組んだ際の達成度を確認し、必要に応じた指導をします。

取り組ませ方(例)

- 学習した問題との共通点や相違点を整理し、学習した考え方を基にして、解いたり表現したりする。
- 自分が思いがなかった考え方を思い、解いたり表現したりする。
- 料々に獲得した考え方を思い、解いたり表現したりする。
- 集団で練習上げるなどしたよりよい考え方を思い、解いたり表現したりする。
- 既習事項との関連付けを意識しながら、解いたり表現したりする。

※ 習得した知識及び技能を適用する問題に取り組ませることで、児童生徒の活用が高まること期待し、知識及び技能の定着がより確かなものになります。

「学習内容をまとめる」を一步先へ！

「学習内容を整理、確認させる。」ための手立てを協議する。

一步先へ！

こんなことはありませんか？

学習内容をまとめる

- ・学級全体でまとめが共有されていない



学習内容を整理、確認させる

- ・教師が主導し、本時の要点を理解できるよう、学級全体で、児童生徒に学習の過程を振り返らせる。

| | |
|-------------|--|
| 自分の 考え | |
| 参考になる 考え | |

「学習内容をまとめる」を一步先へ！

<授業5 ④> 学習内容をまとめる 学習内容を整理、確認させる

p 4

授業5 ④ 学習内容をまとめる

【学習目標】

【学習内容】

【学習活動】

【評価】

【振り返り】

学習内容をまとめる

学習内容を整理、確認させる

p 9

◎ 教員が生導し、本時の要点を理解できるよう、学級全体で、児童生徒に学習の過程を振り返らせます。

・板書に基づき、主たる学習活動やそこでの学びについて、児童生徒の意見や考えを取り上げながら整理、確認します。

| まとめる流れ | 教員の工夫や配慮事項 |
|---------------|--|
| ① 導入場面のダイジェスト | 「めあて」を再確認し、「めあて」に対する自分の達成度を考えるための時間であることを知らせます。 |
| ② 展開場面のダイジェスト | 一人一人の当初の考えが、交流によりどのように広がり、深まっていたのかについて確認します。 |
| ③ 終末場面のダイジェスト | 考えの広がりや深まりの過程を確認したところで、まとめで振り返ることを促し、児童生徒の発言を促しながらまとめます。 |
| ④ 振り返り | 「まとめ」を書かせたら「振り返り」を行います。 |

| 導入に関すること | 展開に関すること | 終末に関すること |
|-------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 問題提示・めあて | <input type="checkbox"/> 児童生徒の学びの過程 | <input type="checkbox"/> 活用記録など |
| <input type="checkbox"/> 児童生徒との確認事項 | <input type="checkbox"/> 思考の流れ など | <input type="checkbox"/> まとめ |

1 単位時間をダイジェストで振り返るには、精選された板書だと分かりやすいね！

「授業の振り返りをする」を一步先へ！

「学習の成果を自覚させる。」ための手立てを協議する。



こんなことはありませんか？

授業の振り返りをする

- ・ 毎時間同じ記述を繰り返す
- ・ 情緒面のみを振り返っている



学習の成果を自覚させる

- ・ 自らの学びと関連付けて充実感、達成感、自己有能感を実感させる

| | |
|-------------|--|
| 自分の 考え | |
| 参考になる 考え | |

「授業の振り返りをする」を一步先へ！

<授業5 ⑤> 授業の振り返りをする 学習の成果を自覚させる

p 4

The screenshot shows a lesson plan for 'Mathematics: First Semester'. It includes sections for 'Lesson Objectives', 'Lesson Content', and 'Lesson Procedure'. A red box highlights a section titled '授業の振り返り' (Lesson Reflection) which contains a table for '振り返りシート' (Reflection Sheet) with columns for '振り返り項目' (Reflection Item) and '振り返り内容' (Reflection Content). The table lists items like '自分の学習の振り返り' and '他者の振り返り'.

p 9

◎ 自らの学びと関連付けて充実感、達成感、自己有能感を体験させます。
 ・感想のみにしないためには、学習内容と関連付けることが大切です。

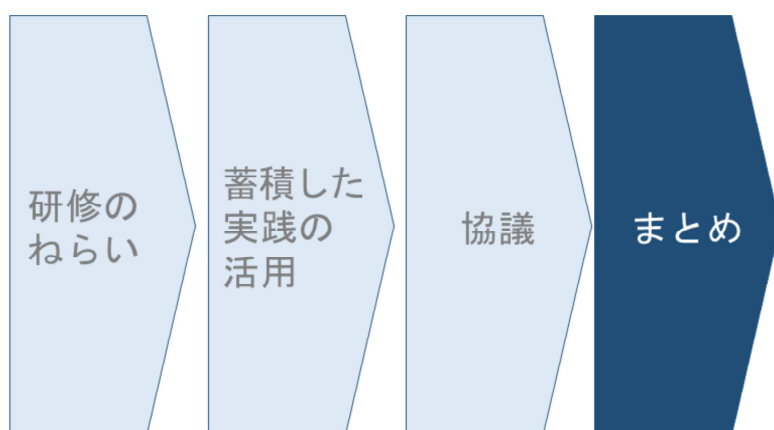
視点1 具体的に身に付けた学習内容
 『〇を覚えると、点数は□□のようには伸びることが分かった。』

視点2 既習事項との関連付けや一般化
 【関連付け】『以前学習した確率の土地では、気候を生かした産業を発達させていたが、今日学習した寒い土地でも、同様に気候を生かした産業を発達させていた。』
 【一般化】『地域によって、気候や地形は異なるが、それらを生かしながらくらしを営むとき、産業を発達させていることは共通していた。』

視点3 自己変化の自覚
 『授業の前は〇〇について、△△だと考えていたが、学習した結果、□□だと分かった。』

視点4 他者との交流による自覚
 『全体交流をしたことで、〇〇だけでなく、△△や□□とも考えられることが分かった。』

進 行

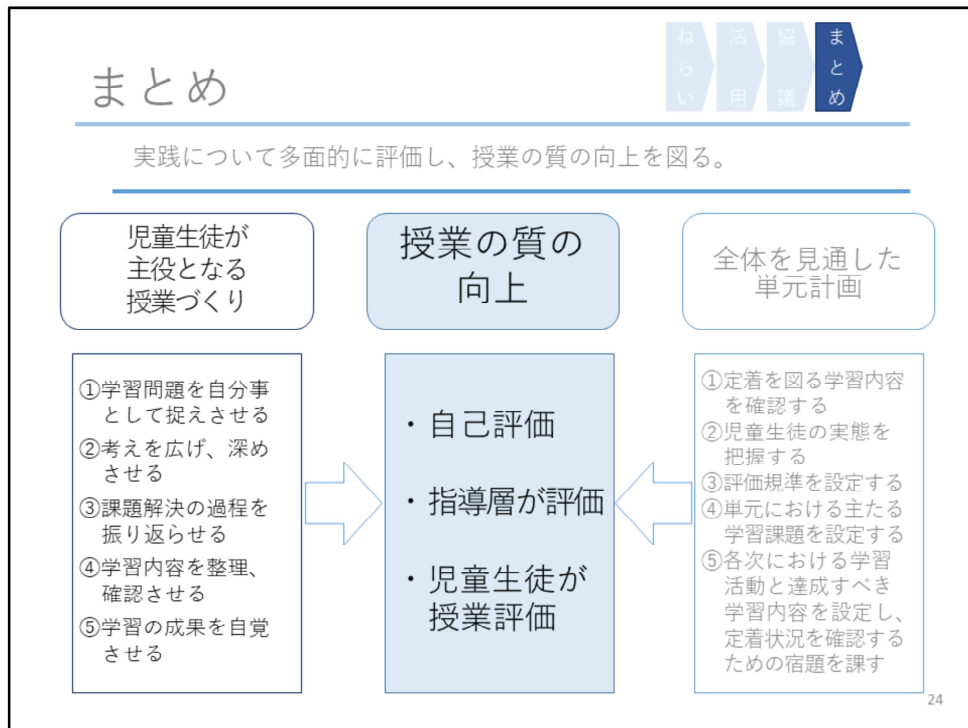


23

の構成は、以下のとおりです

実践について多面的に評価し、授業の質の向上を図ることの
大切さを説明しています。

授業改善に生かすための振り返りを行います。



中央を見てください。

増補版の目的は、授業の質の向上であり、そのために、「児童生徒が主役となる授業づくり」について研修しました。

左を見てください。

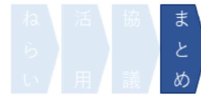
児童生徒が主役となる授業を実現するためには、先生方の授業観を転換し、一斉講義型の授業だけを実施するのではなく、本時のねらいに応じて児童生徒主体の授業を取り入れる必要があります。

そのために、授業5を一步先へ進める（①から⑤を確認する）取組を推進しましょう。

授業観を転換しようと挑戦している先生方を支えることも大切です。具体的には、中央の下段にあるように、多面的な評価により、成果を自覚させ自信を育んだり、次のステップを明確にし取り組むべきことを焦点化したりすることが大切です。

このような取組を全校一丸となって推進し、児童生徒の力を伸ばしていきましょう。

まとめ



授業改善に生かす。

質の高い授業の実現のために、

- 1 『学習指導S【増補版】授業改善、「一歩先へ!」』（以下、「一歩先へ」とする。）に基づき協議することで、**児童生徒が主役となる授業づくりについて理解を深める**
- 2 各自の実践の好事例を共有することで、学校全体や各自の**授業改善に生かす**ことをねらいとする。

25

最後に、研修を通しての気づきや、共有した取組を推進するための振り返りをします。

5分間で、気づきや今後取り入れたい工夫を記入しましょう。

（記入後）各自の振り返りを共有することで、今後の実践のポイントを互いに宣言し合しましょう。

子供たちの笑顔のために



©岡山県「ももっち、うらっちと仲間たち」 26

以上で、研修を終了します。